

家族コミュニケーションに関する意識調査
家族とのコミュニケーションにITツールを毎日活用する
「オンライン家族」が登場！？
コミュニケーション満足度は74点と高水準

マーケティングリサーチを行う株式会社メディアインタラクティブ（所在地：東京都渋谷区）では、世の中の動向をいち早く把握するために、独自で調査を行っております。今回、2012年1月26日～27日の2日間に、全国の30歳～49歳の既婚男女1200名を対象に「家族コミュニケーション」をテーマにした、インターネットリサーチを実施いたしました。

2011年は様々な出来事があり、家族のあり方が見直された一年でした。さらに近年は、スマートフォンやタブレット端末といったモバイル端末の普及や、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアの利用者の拡大により、家族間のコミュニケーションにも変化の兆しがみられそうです。そこで、最近の家族間のコミュニケーションについて、ITツールと家族コミュニケーション関係を研究する、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の石井クンツ昌子教授監修のもと、調査を行いました。

【調査概要】

1. 調査の方法：株式会社メディアインタラクティブの運営するアンケートサイト「アイリサーチ」のシステムを利用したWEBアンケート方式で実施
2. 調査の対象：全国の30歳～49歳の既婚男女
3. 有効回答数：1200名
4. 調査実施日：2012年1月26日(木)～1月27日(金)

【調査結果概要】

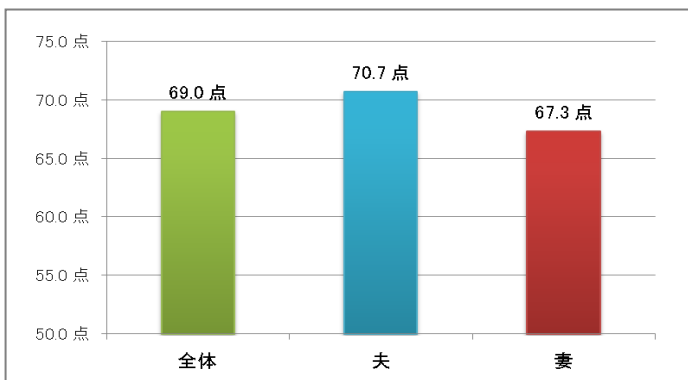
1. **家族コミュニケーション満足度 平均点数は69.0点。**
妻と夫の比較では、妻の方が家族への不満やコミュニケーションの不安を感じる傾向に現在の家族間のコミュニケーションについて、どの程度満足しているかを既婚男女に尋ねたところ、100点満点中の平均点数は、全体で69.0点となりました。夫婦でみると、妻67.3点、夫70.7点と、3.4ポイント差で夫の方が満足度の高い結果となりました。満足度に差がある背景には、「妻の方が夫から情緒的なサポートを十分に得ていない」ということが考えられます。
2. **毎日家族とITツールを用いて積極的にコミュニケーションをとる「オンライン家族」**
コミュニケーション満足度 平均点数は74.0点と高水準
石井教授との調査結果の分析によると、家族とのコミュニケーションに「PCや携帯電話、スマートフォン、タブレット端末」などのITツールを“毎日”使っている「オンライン家族」が35.8%いることがわかりました。「オンライン家族」は、家族の予定や情報を把握し、家族一緒にお出かけや記念日を楽しむ人が多く、コミュニケーションへの高い意識をもっていることがわかりました。ITツールの積極的な活用が、家族コミュニケーションの活性化に寄与しているのかもしれませんが、「オンライン家族」の、コミュニケーション満足度の平均点数は74.0点と高く、“2～3日に1回以下”の頻度で使っている人との差は7.8ポイント差であったことがわかりました。

3. “家族とのコミュニケーションを増やしたい”、さらに“家庭で使いやすい IT ツールがあれば使ってみよう”と思う「オンライン家族」予備軍は 41.2%

家族とのコミュニケーションに IT ツールを“2~3 日に 1 回以下”の頻度で使っている人の中には、今よりも“家族とのコミュニケーションを増やしたい”と思っており、さらに“家族で使える”“家族コミュニケーションに役立つ”など、「家庭で使いやすい IT ツールがあれば使ってみよう」と思っている「オンライン家族」予備軍が 41.2%いることがわかりました。
IT ツールを通じて、家族コミュニケーションを活性化させたいと考える人は多いのかもしれませんが。

【調査結果概要と考察】

Q.家族とのコミュニケーション満足度 平均点数（全体） 【N=1200】



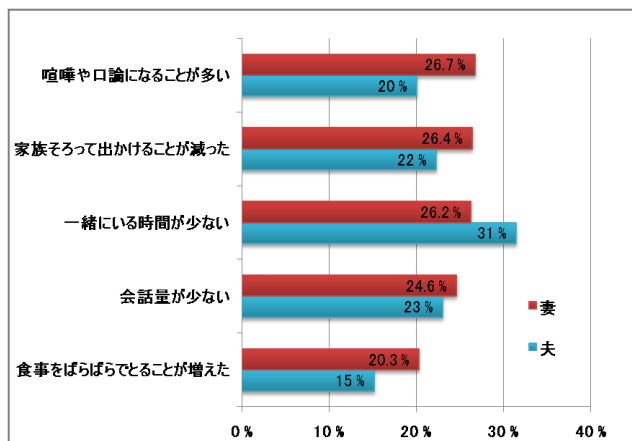
家族コミュニケーション満足度について、夫と妻に 100 点満点中の点数を尋ねたところ、全体の平均点数は、69.0 点という結果でした。また、夫の平均は 70.7 点、妻の平均は 67.3 点となり、夫と妻では、夫の家族とのコミュニケーション満足度が 3.4 ポイント高いことがわかりました。

Q. 家族に対して、どのような不満をもっていますか。 【N=1200】

夫の不満		夫(N=600)
第 1 位	妻の掃除が不十分	35.8%
第 2 位	働いているのに日頃感謝されない	32.5%
第 3 位	子どもが時間にルーズ	30.9%
第 4 位	妻が時間にルーズ	28.6%
第 5 位	子どもが言う事をきかない	28.0%

妻の不満		妻(N=600)
第 1 位	家事を当たり前と思われている	64.2%
第 2 位	夫が家事を手伝ってくれない	44.2%
第 2 位	子どもが言う事をきかない	44.2%
第 4 位	夫が育児を自分に任せきり	41.6%
第 5 位	夫が家に帰ってくるのが遅い	38.5%

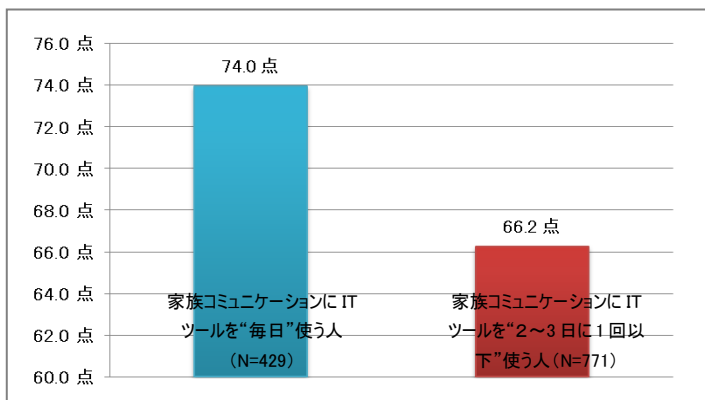
Q. 家族とのコミュニケーションで不安に感じていることはありますか。 【N=1200】



調査では、妻の方が家族に対して不満に思うポイントが高いことがわかりました。「家事を当たり前と思われている」は 64.2%が不満に感じているようです。また、コミュニケーションで不安を感じるポイントも、妻の方が比較的高い傾向にあるようです。「喧嘩や口論になることが多い」は妻と夫で 6.7 ポイントの差がみられます。

石井教授は、妻の方が「夫に自分の悩みなどを受け入れられていない」や「夫の悩みを聞くほどには自分の悩みを夫に聞いてもらっていない」と感じる人が多い、つまり妻の方が夫から情緒的なサポートを十分に得ていないと考えている場合が多いことが一つの大きな理由であると分析しています。

Q. 家族とのコミュニケーション満足度 平均点数 (IT ツール利用頻度別)



さらに分析したところ、家族とのコミュニケーションに「PCや携帯電話、スマートフォン、タブレット端末」などのITツールを“毎日”使っている人とそうでない人では、コミュニケーション満足度に差があることがわかりました。

ITツールを“毎日”使う人は、平均点数が74.0点と高く、“2~3日に1回以下”の頻度で使っている人と比べて、7.8ポイント高い結果となりました。

Q. ふだん家族ととるコミュニケーション (IT ツール利用頻度別)

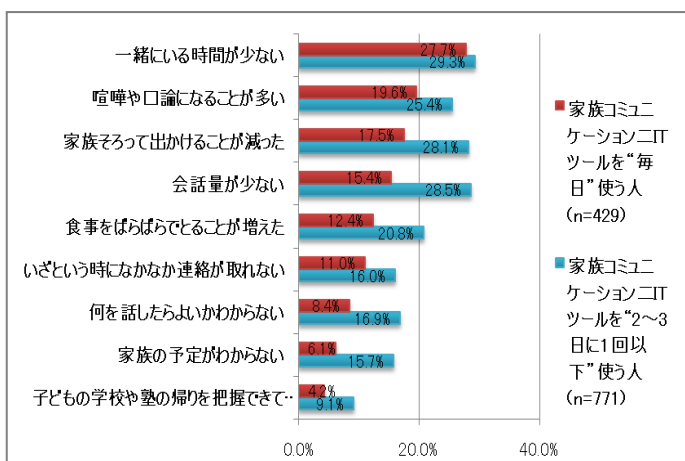
順位	ふだん家族ととるコミュニケーション	家族コミュニケーションにITツールを“毎日”使う人 (n=429)	家族コミュニケーションにITツールを“2~3日に1回以下”使う人 (n=771)
第1位	誕生日に家族でパーティーをする	87.9%	79.0%
第2位	日頃からよくおしゃべりする	84.1%	73.9%
第3位	家族全員が一緒に食卓を囲む	83.4%	76.7%
第4位	家族の予定を共有し合う	81.6%	64.6%
第5位	休日は買い物や外食など、家族でよく出かける	79.0%	59.5%

「PCや携帯電話、スマートフォン、タブレット端末」などのITツールを家族コミュニケーションに“毎日”使う人は、ふだん家族ととるコミュニケーションの内容が、“2~3日に1回以下”使う人よりもポイントが高いことがわかりました。とくに双方のギャップが大きいのが「休日は買い物や外食など、家族でよく出かける」(19.5ポイント差)、「家族の予定を共有し合う」(17.0ポイント差)でした。

また、家族と一緒にとる行動や会話の頻度が高く、家族の予定や情報を把握する傾向にあり、家族一緒のお出かけや記念日を楽しむ傾向にあります。

このように、ITツールを“毎日”使う人は、コミュニケーションへの高い意識をもっており、ITツールの積極的な活用が、家族コミュニケーションの活性化に寄与しているのかもしれない。

Q. 家族とのコミュニケーションで不安に感じていること (IT ツール利用頻度別)



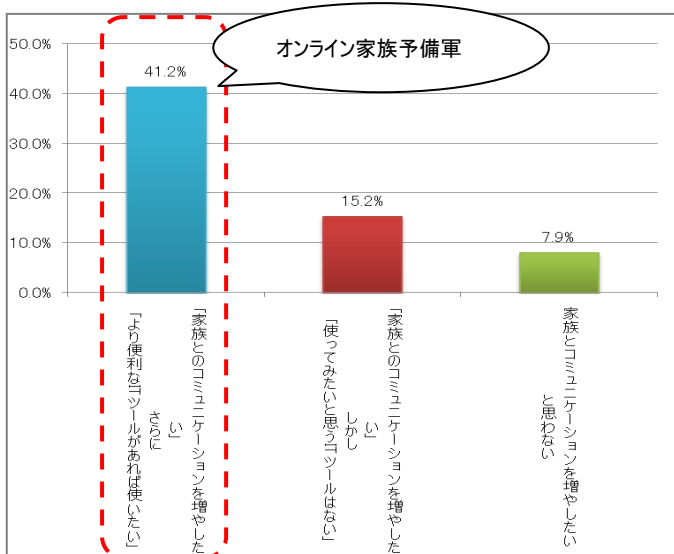
「PCや携帯電話、スマートフォン、タブレット端末」などのITツールを家族コミュニケーションに“毎日”使う人は、“2~3日に1回以下”使う人に比べ、家族とのコミュニケーションに関して不安に感じているポイントが全体的に低いことがわかりました。

“毎日”利用している人の約3割は、家族と「一緒にいる時間が少ない」という回答をしている一方で、家族内での口論、会話量が少ないこと、家族との連絡のとり方や会話内容などに対する不安度は低いようです。日頃のITを活用したコミュニケーションがこれらの不安を少なくさせているのかもしれない。

2012. 2. 15

このように、家族とのコミュニケーションで IT ツールを積極的に活用する人々は、「オンライン家族」ともよべるでしょう。

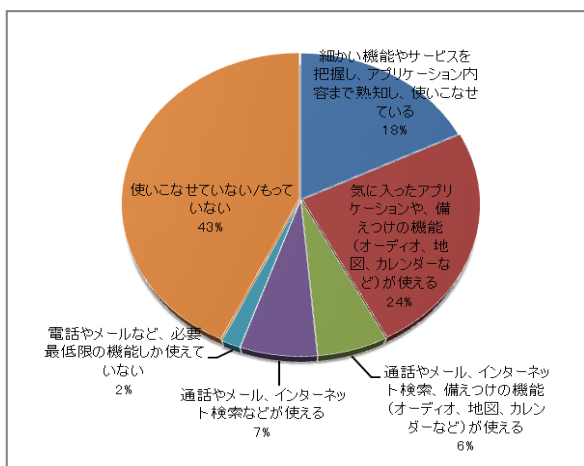
Q. 「家族とのコミュニケーションをもっと増やしたいと思うか」「便利な IT ツールがあれば使ってみたいと思うか」【N=771】



家族とのコミュニケーションに IT ツールを “2~3 日に 1 回以下” の頻度で使っている人の中には、今よりも「家族とのコミュニケーションを増やしたい」と思っており、さらに、“家族で使える” “家族コミュニケーションに役立つ” など、「家庭で使いやすい IT ツールがあれば使ってみたい」と思っている人が 41.2% いるようです。

このような家族とのコミュニケーションや IT ツールへの意向が高い人々は、「オンライン家族」予備軍といえるでしょう。

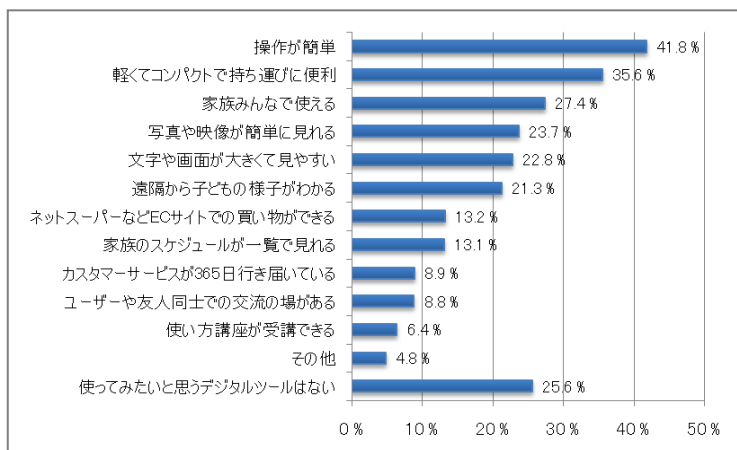
Q. スマートフォンやタブレット端末をどの程度使いこなせているか 【N=1200】



ここ数年、普及してきたスマートフォンやタブレット端末について、機能やサービスをどの程度使えているかを尋ねたところ、「細かい機能やサービスまで把握し、使いこなせている」人は 18% 程度にとどまり、気に入ったアプリケーションを使える人は 24%、通話やメール、インターネット検索などが使える人は 13% と、全体で 37% の人がある程度の機能を使っていることがわかりました。

その一方で、約 4 割の人が使いこなせていない、あるいはまだ利用していない状況のようです。

Q. どのような IT ツールであれば使ってみたいか 【N=1200】



使ってみたい IT ツールについて尋ねたところ、操作や持ち運びの簡易さに加え、「家族みんなで使える」、「写真や映像が簡単に見られる」、「遠隔から子どもの様子がわかる」、「家族のスケジュールが一目で見られる」など、家族で使え、家族コミュニケーションに役立つ、ということも、使ってみようとする IT ツールのポイントとして挙げています。全体で見ると 74.4% が便利で家族コミュニケーションに役立つ IT ツールへの利用意向を示しています。IT ツールを通じて、家族コミュニケーションを活性化させたいと考える人は多いのかもしれませんが。

【石井クンツ昌子氏より解説】

●コミュニケーションへの意識が強い「オンライン家族」

「オンライン家族」は他の家族と比べて、家族の予定を共有し合うこと、お互いの悩みを相談し合うこと、家族共通の趣味や習い事を一緒に楽しむことなどが多いといった特徴があることがわかりました。このように、IT ツールを触媒としてコミュニケーションをとり合う「オンライン家族」は、家族同士のコミュニケーションに対する意識が強く情報の共有が上手くできている家族と呼べるでしょう。また、ふだん IT ツールは使いつつも、家族とのコミュニケーションではいかしきれていない、でも、より家庭で使える便利なツールがあれば使ってみたいという「オンライン家族」予備軍も半数近くいることがわかりました。

●家族のために使える IT ツールやアプリケーションの活用が、コミュニケーションをより豊かに

私の研究プロジェクトチームが行った育児期の父親と母親を対象とした「インターネットと家庭生活に関する調査」では、父親は IT ツールを利用して子どもと遊びに行く場所の検索や保育園、幼稚園、町内会での行事についての情報交換をすることが多く、母親は自分の親へ家族の写真を送ったり、育児書では対応できないようなアドバイスを得たり、病院の待ち時間や交通乗り換えを確認するなどの地域に密着した生活情報を収集していることがわかっています。

このように、IT ツールの活用は家族間のコミュニケーションを豊かにし、家族の情報共有を促進させ、生活に役立つ情報の検索や収集を可能にしています。これらの調査結果を見ると、日常の生活で家族のために使える IT ツールやアプリケーションの活用が、これからの家族間のコミュニケーションをより豊かにすることにつながると予想します。

また、妻の夫婦間コミュニケーション満足度が夫と比べて低い傾向にあるので、女性が夫からの様々なサポートを得ることが可能になるような環境づくりが大切です。そのためには、今後は、IT ツールを活用したコミュニケーションが重要になってくるでしょう。

■監修者プロフィール

石井 クンツ 昌子

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科教授。

家族社会学的見地から家庭内でのジェンダー構築、そしてその再生産プロセスについての理論を援用した実証研究をしている。とくに家庭内の性別役割分担や父親の育児・家事参加に焦点を置き日米などの国際比較をする。育児期の父親と母親が IT ツールを活用してどのような子育てをしているかの日米比較研究も現在進行中。『IT 社会における育児期のインフォーマルネットワークと世代関係：日米比較から』報告書、論文「共働き家庭における男性の育児参加」渡辺秀樹、稲葉昭英、嶋崎直子編（2004年）、「父親の役割と子育て参加：その現状と規定要因、家族への影響」（2009年）などを多数発表。

PRESS RELEASE

2012. 2. 15



【引用・転載時のクレジット表記のお願い】

本リリースの引用・転載は、必ずクレジットを明記していただきますようお願い申し上げます。
<例> 「インターネット調査のメディアインタラクティブが実施した調査結果によると・・・」

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社メディアインタラクティブ

広報事務局 : 小林

TEL 03-6826-5000 FAX 03-6419-8375

e-mail pr@i-research.jp <http://www.i-research.jp>

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-26-18 矢倉ビル 6F